

活動報告

育児休暇をとって感じたこと
～パパPTからの育休報告～

川崎市立多摩病院 西山 昌秀

会員ライフサポート部
活動報告 第61報
職場環境を考える

40歳を過ぎて、もう子供は難しいかもと考えていましたが、今年男の子を授かる事が出来ました。職場の上司や同僚の理解もあり、退院後2週間育児休暇を取ることも出来ました。最近は男性の育児休暇の取得も珍しくなくなってきましたが、それでも女性の取得より著明に少ないのが現状です。貴重な経験と考えましたので報告させていただきます。

多くの女性は実家に帰って、家族のサポートを受け、体調を回復させて行くと思います。今回は妻と相談してそのサポートを実家の両親ではなく、私が行う事になりました。実際行った事は、買い物、掃除、洗濯、ミルクの準備、おむつ替え、抱っこなど出来る事は何でも行いました。妻も思ったより産後、動くことが出来て2人で家事を分担して行えたので家事、育児自体は無難に行えました。ただし、その中で非常にしんどかったのは夜間に起きて、ミルクの準備をすることでした。起きて、すぐに行動するというのが非常に大変でした。ミルクの粉を入れて、温度の調節をする。それが2-3時間おきにやってくる。寝不足で日中もボーっとしていたのを覚えています。また、抱っこで寝かしつけるのも非常に難しく、結局私が寝かしつけられたのも2週間で数回、それ以外は妻が寝かしつけていました。育児休暇前は、やる気さえあれば何とかなると考えていたのですが、それは全く違いました。やる気だけではどうにもなりません。

しかし、その苦勞以上に感じたのは、子供の成長を日々感じられるという幸せでした。開かなかった目が開く様になり、か細い声が大きくなり、あまり動かなかった手

足が強く速く動く様になり、たった2週間でも子供の成長を多く感じる事が出来ました。もし、妻が実家に帰省していたら、細かな子供の成長や育児の大変さなどあまり感じる事が出来なかったと思います。

現在、日本でも男性が少しずつ家事や育児を行う様になっているようですが、世界基準で考えると、まだまだ男性が仕事をして、女性が家事をするのが当たり前です。そのため、男性は育児休暇などを取らなければ子供と長期間一緒に過ごすことが出来ることはなかなかないと思います。今回は「育児休暇」という非常に貴重な経験をさせて頂きました。状況が許せば、男性もぜひ育児休暇の取得をお勧めします。



◆平成29年度復職支援実務研修のお知らせ◆

- 【目的】もう一度働きたいけど臨床から離れた不安から躊躇されている方に、現場での見学や研修を通して自信をつけてもらうことを目的とした研修です。
- 【対象者】離職中の神奈川県理学療法士会会員（離職の理由は不問、復職先が決まっている方は対象外）
- 【研修先】希望の地域、職域（回復期、訪問リハなど）を元に相談させていただきます
※研修先として確約いただいている施設はホームページに掲載しています
掲載されている施設以外も交渉していく予定ですので、お気軽にご相談ください
- 【期 日】5時間×1～5日間分（連続5日間でもOK。期日や研修の方法は相談して決めます）
- 【参加費】1日につき1,000円 【申込締め切り】平成30年2月28日
- 【問い合わせ先】下記までメールでお願いします。詳しくは県士会ホームページをご覧ください
lifesupport@pt-kanagawa.or.jp（ライフサポート部 寺尾）

